

岩手医科大学 医学部 卒業時コンピテンシー

「誠の人間を育成する」という本学の理念を達成するために

本学医学部では、ディプロマポリシーに掲げる、

学生が卒業時に習得すべき8つの能力（＝コンピテンス）について

具体的な達成目標として次のとおりコンピテンシーを定めている。

I. 医療倫理

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に全人的人間性をもち、社会正義と患者の福祉を最優先とする「誠の人間」として、常に自己研鑽に努め、臨床医として最新かつ最善の医療を地域にもたらし、研究医として人類の福祉に貢献する姿勢を示すことができる。

II. プロフェッショナリズム

岩手医科大学医学部の学生は、幅広い知識、優れた技術、「誠の人間たる」態度を身につける必要があることを理解し、日々研鑽を続けることができる。

III. 医療安全

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に地域に安全な医療を提供し続けるために、感染対策、医療安全管理に対する知識を身につけ、医療の質の向上に努めることができる。

IV. 医学的知識

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に診療場において、基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を習得し、疾患の予防、診断、治療に活用できる。

V. 診療技術・患者ケア

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に患者の意思を尊重し、誠の医師として患者に接し、的確な診療を実践できる。

VI. コミュニケーションとチーム医療

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に患者中心の医療を実践するために、「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族・医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築することができる。

VII. 社会における医療の実践

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に社会保障制度および法律に関する知識を有し、国内外の保健医療に貢献できる。

VIII. 地域医療

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に地域の特性を理解し、地域のニーズに配慮した診療や予防医学を実践できる。

I. 医療倫理

	マイルストーン		卒業時コンピテンシー	advanced
	レベル C	レベル B	レベル A	レベル S
I-1 倫理観	医療倫理・研究倫理の原則を説明できる。	生命倫理に基づき、個人の尊厳・福利を第一とし、社会・人類への利益を最大化する科学的思考について述べるができる。	医療人として生命倫理に基づき、個人の尊厳・福利を第一とし、社会・人類への利益を最大化する科学的方策を提案できる。	医療人として生命倫理に基づき、個人の尊厳・福利を第一とし、社会・人類への利益を最大化する科学的思考に基づいた診療・研究ができる。
I-2 利益相反	利益相反について説明できる。	利益相反となる問題点を列挙できる。	利益相反を開示できる。	利益相反を生じる可能性を認識し適切に対処できる。
I-3 守秘義務	守秘義務と個人情報保護について説明できる。		守秘義務を順守し、個人情報を保護できる。	

II. プロフェッショナリズム

	マイルストーン		卒業時コンピテンシー	advanced
	レベル C	レベル B	レベル A	レベル S
II-1 謙虚な姿勢と自己規制	a 医学生・医師として社会に信頼される行動について説明できる。	社会的立場をふまえ、常に自らを律し、傲ることなく、謙虚に行動できる。	全人的人間性に基づき、自身を振り返ることにより行動改善ができる。	
	b 自身の抱える問題を列挙し、それらの問題に対し自身の能力で対処可能かどうかの判断ができる。	自己解決不可能な問題について、指導者や上級医に助言を求めることができる。	他者からの助言・指導を真摯に受け止め、受け入れることができ、後輩に対しては適切な助言ができる。	
II-2 利他的・共感的態度	利他的・共感的な態度について説明できる。	患者の課題を理解し、効果的に関わる方法を選択できる。	患者の苦痛・心情に配慮し、患者および家族に対し、利他的・共感的な態度で行動できる。	
II-3 臨床経験・研究成果の発表	与えられたテーマや模擬症例についてグループ内でディスカッションし、その結果をクラス内で発表できる。	経験した症例や研究について指導者と共に解析および考察し、学内でプレゼンテーションできる。	経験した症例や研究について指導医と共に解析および考察し、それらを社会に発信することができる。	経験した症例や研究について指導医の下で自身が主体となり解析および考察し、それらを社会に発信することができる。
II-4 生涯学習	医学生として必要な最低限の常識を身につけ、継続して学習する姿勢を身につける。	将来にわたる自己学習の重要性を理解し、医師になるための基礎知識を身につける。	医師として、進歩し続ける医療における最新の知識を収集することができる。	進歩し続ける医療において、最新・最善の医療を提供するために、継続して学習し続けることができる。
II-5 後進の育成	自ら学んだ知識を後輩へ伝えることができる。	自ら学んだ知識や技能を後輩へ伝えることができる。	「誠の人間たる」態度を身につけることの必要性を後輩に説明できる。	教育・研究・診療を次世代に受け継いで行く使命を認識し、後進の指導・育成を行うことができる。

Ⅲ. 医療安全

		マイルストーン		卒業時コンピテンシー	advanced
		レベル C	レベル B	レベル A	レベル S
Ⅲ-1	感染対策	感染症と感染対策について説明できる。	指導のもとに、一般的な感染予防策を立案できる。	感染対策について理解し、予防策を実践できる。	感染対策の重要性を理解し、着実に予防策を実践し、指導することができる。
Ⅲ-2	a	インシデント、アクシデントの違いを理解し、説明できる。	インシデント、アクシデント発生時の対応について説明できる。	岩手医科大学の医療安全マニュアルを理解し、実践できる。	インシデント、アクシデントレポートを適切にかつ速やかに報告でき、今後の対策に活用することができる。
	b	医療事故調査制度を説明できる。	事例から医療事故のレベルを判断できる。	医療事故を認識し、発生時に必要な対応を列挙できる。	医療事故発生時の対応を理解し、指導医のもと実践できる。
	c	医療安全規範について説明できる。	医療安全規範に基づき、状況に応じた行動方法を提示できる。	医療安全規範についての知識を持ち、患者・医療スタッフの安全を守るための対応ができる。	医療安全規範について深く理解し、地域の医療現場において反映できる。
Ⅲ-3	医療の質	診療技能や安全管理について振り返ることの重要性を説明できる。	医療安全	自らが実施している診療技能や安全管理について振り返り、改善に努めることができる。	組織や自身が実施している医療の質や安全管理について常に振り返り、改善・向上を図ることができる。

IV. 医学的知識

	マイルストーン		卒業時コンピテンシー	advanced	
	レベル C	レベル B	レベル A	レベル S	
IV-1 基礎医学	a	人体の正常な構造・機能とその成立・維持に関わる機構を説明できる。			
	b	病気の発症と進展に関わる因子・機構を説明できる。	基礎医学の知識を主要な疾患の病因・病態・症候の理解に応用できる。	基礎医学の知識を基盤に、疾患の病因、病態、症候を説明し、診断、治療に活用できる。	基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を、診断や治療へ応用することができる。
	c	ライフサイクル（発達、成長、加齢、死）を説明できる。			
IV-2 社会医学	a	疾病予防、健康増進の重要性、健康行動に関する理論について説明できる。	社会医学に関する理論を活用し、個人・集団を対象とした予防活動・健康増進について立案できる。	指導の下で個人・集団を対象とした予防活動に参加できる。	地域のニーズと特性を考慮し、個人・集団を対象とした予防活動を実践できる。
	b	保健・医療・福祉・介護の関連法規・制度・組織・専門職について概説できる。	モデル事例を用いた行動立案演習において、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職を考慮できる。	医療の現場で、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職を意識して行動できる。	医療の現場で、保健・医療・福祉に関する関連法規、制度、組織、専門職を考慮した活動を提案できる。
IV-3 疫学、統計学		医学に必要な疫学、統計学の基礎を説明できる。	疫学や生物統計学の知識を応用して、実習・実験データを評価することができる。	生物統計学や疫学に関する基本的知識を用いて、医学情報を説明できる。	診療データや研究データを整理・統合し、生物統計学や疫学に関する基本的知識を論文や学会発表の形で発信できる。
IV-4 行動科学		精神機能と行動、人間関係、社会との関わりを説明できる。	基礎科学や行動科学に裏付けられた知識から、人の心理と行動について考察できる。	人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応ができる。	人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応と医療を提供できる。
IV-5 医学英語		医学英単語を用いて簡単なコミュニケーションができる。	指導の下に、英字の医学書・論文を読み、内容を概説することができる。	英語の医療文書や医学論文を読み、その内容を概説できる。	英語を用いて患者とコミュニケーションをとり、症例サマリーなどを適切に英文で記載できる。
IV-6 臨床医学		高頻度または重要な疾患について、疫学・病因・病理・病態・症候・診断・治療・予後を説明できる。	高頻度または重要な疾患について、知識を用いて、臨床推論に基づく適切な診断ができる。	適切に診察を行い、臨床推論に基づく適切な診断ができ、治療方針を提案できる。	高頻度または重要な疾患について、知識や臨床推論を用いて、診断を適切に行い、初期治療ができる。
IV-7 リサーチマインド		疑問点や問題点をピックアップすることができる。	疑問点、問題点をピックアップし、それを解決するための研究計画の立案・実施に必要な科学的情報を収集できる。	疑問点、問題点をピックアップし、それを解決するための研究計画の立案・実施に必要な科学的情報を収集し、それを基に論理的・批判的に思考できる。	

V. 診療技術・患者ケア

	マイルストーン		卒業時コンピテンシー	advanced
	レベル C	レベル B	レベル A	レベル S
V-1 医療面接	聴取すべき項目について説明できる。	病歴を正確に聴取することができる。	病歴を聴取し、情報を取捨選択し、整理できる。	病歴を要領よく正確に聴取し、診断に役立てることができる。
V-2 臨床技能	基本的身体診察や臨床手技について概説できる。	模擬患者やシミュレータに対して基本的身体診察や臨床手技を実践できる。	患者に対して、診断に必要な基本的身体診察や基本的臨床手技を安全に実践できる。	日常診療に用いる臨床手技を安全に実施できる。
V-3 問題解決	重要な症候について鑑別すべき疾患を挙げることができる。	与えられた医療情報から異常所見について基礎医学を用いて概説し、鑑別疾患を列挙し、検査計画を立案できる。	収集した病歴・身体所見より臨床推論ができ、頻度の高い、または、緊急性や重症度の高い疾患・病態の診断を行い、治療計画を立案できる。	収集した医学情報から鑑別診断を行い、診断・治療に必要な検査計画を立案した上で、指導医のもとで治療を実施できる。
V-4 文書作成	a 医療文書、問題志向型診療記録について概説できる。	模擬症例の情報を問題志向型診療記録形式で模擬診療録に記載し、問題リストを作成できる。	問題志向型診療記録形式で電子カルテを正確に記載できる。	問題志向型診療記録形式で診療録に必要な内容を記載できる。
	b 診断書、処方箋について概説できる。	模擬書類を用いて診断書、各種処方箋を記載できる。	診断書・各種処方箋を計画できる。	指導医のもとで診断書・各種処方箋を記載できる。
V-5 プレゼンテーション	a 相手にわかりやすく、簡潔なプレゼンテーションの作成方法を説明できる。	模擬症例について、病態・診断・検査・治療などのプレゼンテーションができる。	病歴についての要約を作成し、プレゼンテーションができる。	目的に応じた内容で、情報共有に役立つわかり易いプレゼンテーションができる。
	b 病状説明や患者教育の手法について概説できる。	模擬患者に対して、病状説明や患者教育を行うことができる。	病状説明や患者教育に参加できる。	指導医のもとで患者、家族の個性やニーズを考慮して適切な病状説明や患者教育を行うことができる。
V-6 救急医療	緊急を要する疾患や救急医療体制の概要を説明できる。	シミュレーターで、緊急性の高い状況を判断でき、一次救命処置を行うことができる。	緊急を要する疾患・外傷の病態を理解し、医療チームの一員として救急医療の場で介助できる。	救急医療の場で医療チームの一員として、指導医のもと適切な医療を行うことができる。
V-7 患者への配慮	患者や家族の精神的・身体的苦痛に配慮できる。	日常において、障害を持った人に対して、誠実で適切な支援を行うことができる。	患者の苦痛・心情に配慮し、患者や家族に対する誠実で適切な支援を行うことができる。	患者の苦痛・心情に配慮し、患者や家族に対する誠実で適切な支援と助言を行うことができる。

VI. コミュニケーションとチーム医療

	マイルストーン		卒業時コンピテンシー	advanced
	レベル C	レベル B	レベル A	レベル S
VI-1 患者医師関係	患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景や問題を列挙できる。	患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景を理解し、問題点を提示することができる。	患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景や問題を理解し、良好な人間関係を築くことができる。	患者や家族に関わる身体的、精神的、社会的背景や問題を理解し、確たる信頼関係を築くことができる。
VI-2 コミュニケーション スキル	a コミュニケーションにおける共感、敬意、思いやりの重要性を説明することができる。		コミュニケーションにおける共感、敬意、思いやりの重要性を理解し、実践できる。	
	b 病状説明の要点項目を述べるができる。	模擬症例に対する病状説明用紙を作成することができる。	指導医・医療スタッフに対し、患者への説明を想定したわかりやすい病状説明を行うことができる。	病状をわかりやすく説明した上で、指導医のもと患者や家族の意向を尊重した方針の決定ができる。
VI-3 インフォームド コンセント	インフォームドコンセントの概要を説明できる。	模擬患者に対してインフォームドコンセントを実践することができる。	インフォームド・コンセントの必要性を理解した上で、参加もしくは一部実践できる。	指導医のもと、患者に適切なインフォームド・コンセントを実施できる。
VI-4 チーム医療	a 歯・薬・看護学部の学生との演習において、適切な関係を築くことができる。	他学部の学生とで構成されたグループやチーム間で協力して、課題から問題点を抽出し、解決法を提示することができる。	医師としての誠実さや公正性を示し、患者・家族を含めた医療チームの一員であることを自覚し、診療に参加できる。	医師としての誠実さや公正性を備え、患者・家族を含めた円滑なチーム医療を実践できる。
	b 同級生やグループ間で、お互いに協力しながら学びあうことができる。	同級生やグループ間で協力して、課題から問題点を抽出することができる。	上級医、同級生や医療スタッフ間で、抽出された問題点について話し合い、共に学び合うことができる。	提供する医療の向上のために、医師や医療スタッフ間で、建設的なフィードバックを行い、協力して学びあうことができる。
	c 他の職種専門性を理解し、チーム医療の必要性と構成員の役割分担を説明できる。	同級生や他学部の学生とで行う模擬カンファレンスにおいて、担当患者の要約を作成できる。	多職種で構成されるカンファレンスに参加し、担当患者の要約を報告できる。	患者・家族を含めたチーム医療に参加し、積極的な情報交換を行える環境を作り、自ら意見を述べるができる。
	d チーム間における情報交換の重要性について説明できる。	同級生や他学部の学生とで構成されたグループやチーム間で情報の共有や説明、伝達ができる。	医療チーム内で情報交換を行い、情報の共有や説明、伝達ができる。	医療チームの一員として組織内外の改善案を提案すると共に、チーム内で情報交換を行い、患者やその家族、および医療スタッフからのアドバイスを真摯に受けることができる。

VII. 社会における医療の実践

	マイルストーン		卒業時コンピテンシー	advanced
	レベル C	レベル B	レベル A	レベル S
VII-1 社会保障	a 社会保障の理念および制度とそれに携わる職種について説明できる。	社会保障に携わる各専門職と連携した医療を体験し、連携の必要性を説明できる。	社会保障制度を理解し、その知識を臨床の場で活用できる。	医療・社会問題について関心を持ち、対策を立案できる。
	b 医療関連法規を概説し、医師の義務を列举できる。			
VII-2 国際貢献	医療に関わる国際協力の重要性・仕組みを説明できる。	保健・医療に関する国際的課題を説明できる。	国際社会の一員として、文化・社会・環境に配慮した医療活動に参画できる。	国内外で医師として医療・保健・研究等の活動を通じて国際社会に貢献できる。
VII-3 保険診療・医療経済	各種保険診療と診療報酬制度を説明できる。	各種保険診療と診療報酬制度の問題点を抽出できる。	保険診療・医療経済の問題を考慮した診療を提示できる。	保険診療・医療経済の問題を考慮した診療を実践できる。

VIII. 地域医療

	マイルストーン		卒業時コンピテンシー	advanced
	レベル C	レベル B	レベル A	レベル S
VIII-1 地域医療	地域包括ケアの概念および地域医療および医師偏在の現況を概説できる。	地域医療を体験し、地域包括ケアにおけるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。	疾病予防・包括ケア・救急医療・在宅医療・慢性期医療の地域における問題点を抽出し、医療チームの一員として参画できる。	地域の特性を考慮して、地域包括ケアと連携した医療を実践し、指導医のもと、地域コミュニティの発展に向けて提言ができる。
VIII-2 健康増進と予防医学	a 社会と健康・疾病の関係および予防医学の概念を説明できる。	地域医療を体験し、健康に関する地域の特性と医学的な問題点を説明できる。	地域医療に参画し、予防医学や健康増進を推進できる。	健康に関する地域の特性と医学的な問題点を把握し、地域のニーズに応じた医療を実践することで地域の予防医学・健康増進の推進に貢献できる。
	b 健康増進に係る各機関の役割を説明できる。			
VIII-3 災害医療	大規模災害での医療の特殊性とそれに関与する組織（DMAT 等）について説明できる。	岩手県の被災地の特性や災害から災害後に必要な医療と公衆衛生を説明できる。	災害の各時期に必要なとされる組織および多職種連携を理解した行動ができる。	国内外の大規模災害の実態を理解し、指導医のもと、医療と公衆衛生を実践できる。